

安全な所から暗躍したら
ダメですか？

かりん

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

2、3話で終わる短い話です。

ゲームキャラな術式ネタ。

目次

夢じゃなかった	1
ゲージ	5
契約	9
最終話	13

夢じゃなかった

何気ない普通の現代社会に転生した。

少し過去だったおかげで、株で大儲けし、引き籠もって悠々自適の生活だ。

並行世界らしく、人名や漫画などの違いはあるが、おおよそそのままである。

そんな私だが、どうせなら剣と魔法の世界に生まれたかったと思っていたせいかな、夢を見る。

ぐちよぐちよの化け物を退治する夢だ。

退治すれば、ドロップアイテムが出る。私自身は強くならないが、アイテムで強化するシステムである。

私はこの大冒険に大喜びだった。ワンチャン夢ではない可能性もあったが、起きてる時は化け物見えないし。

ある日、夢の中で意味ありげな幕を壊して入ってみたら、NPCとラスボスっぽいのが戦ってる場面に出くわした。

「ヒーロー見参！ ここは私に任せて逃げたまえ、子猫ちゃん達！」

「は？」

「式神!？」

NPCにキャラは見えたり見えなかったりなのだが、今回は見えるようだ。

装備を換装して、大弓でラスボスっぽいのに攻撃を加える。

うーん。効いてないね。負け確イベントかな？

「勝つのは無理そうだね。とにかく逃げたまえ。私が引きつけよう」

「でも……っ」

「灰原、お言葉に甘えましょう。彼は式神です。それより、一刻も早く呪専に連絡すべき

かと」

「七海！ わかった!!」

えっ 灰原と七海？

まさか……私って漫画世界にゲームキャラを送れる能力持ち!???

混乱しつつも、ラスボスっぽいものの攻撃を引きつけ続ける。

無事二人が退避したので、私もログアウトした。

起きた私は、検索をする。

呪専を発見して崩れ落ちた。

マジかよ。呪霊見えないんですけど!???

とりあえずあれだ、ここ十年後に壊滅するじゃん。準備せねば。夏油様、今からでも救えるかな……。無理か。天元様操れるんじゃない。穏便に死んで貰う意外に何も思いつかん。イケメンは世界の宝。何とか救いたい……。……。

とりあえず、意識して式神？を出せないかな。

早速就寝。

近場の呪霊を倒して、ロッカーに置いておいた癒しグッズと虐待発見時のマニュアル（自作）を取り出して呪専の住所へと向かう。

そして入り口で張ることしばし。

いたっ

「夏油様ですか!?! 最強コンビのファンです! お仕事お疲れ様です! これ、使ってください!」

そして、癒しグッズと呪具とマニュアルを渡して夏油様をフレンド登録してログアウトした。

それから、今までにまして呪霊退治を頑張った。

そうすれば夏油様の仕事が減ると信じて。

役立ちそうな呪具をフレンド登録を通して貢ぎ、説得の手紙を送る。

頼む、何とか立ち直ってくれ……。

4 夢じゃなかった

私は神に祈った。

ゲージ

「夏油様ですか!? 最強コンビのファンです! お仕事お疲れ様です! これ、使ってください!」

「あ、ありがとう……?」

変なウサギの式神が渡してきた、なんだかよくわからない物の中に、目元を温める癒しグッズを発見して、なんとなくクスリと笑う。

顔をあげると、既に消えていた。
なんだったんだろう。

とりあえず、呪力を感じなかったアイマスクを車の中で使った。少し休めた気がした。

後の呪具は悟に見てもらおう。

その二日後。

「傑、変な術式掛けられてる」

「え?」

まさか、悟じゃなくて硝子に言われるとは。

硝子はすぐに悟に電話する。

「とりあえず、血液検査させろ。あと、すぐ治療させろ」

「??」

体の検査をするにあたり、問答無用で眠らされた。

気がついたら、悟が横にいて、ウケる、と笑った。無理した笑みだった。

「お前さ、無理すんなよ」

「よっほど酷い呪いが掛かっていたのかい？」

「お前、自分では見えなかったのか？」

「何が？」

「今も出てる。HPゲージとMPゲージと呪力ゲージ」

「は？」

「そうとしか言いようのないゲージがお前の頭に出てるんだって。ついでに言えば、状態異常のマークも」

「状態異常？」

「脳萎縮にトラウマに過労に毒状態に味覚障害に睡眠不足。HPは半減、MPなんて九割減」

「何それ」

「とりあえず、睡眠不足と過労は消えたな。硝子に感謝しろよ。それに、お前に術式使った奴にも」

「全然覚えがないんだけど……あ、そういえば、ファンだつて人に手を握られた」

「何それ」

「癒しグッズと小瓶みたいなのと変な虐待に対する対処法のマニュアル」

「何それ、虐待されてるって？　かもな」

「悟……？」

「ごめんな、気づいてやれなくて。俺、毒の警戒はしてたけど、傑の方までは気にしてなかった。これから対処方法教えるから、傑も気をつけておいてくれ」

「ああ、でも私、これから呪力と体力と精神力が人の目に見える状態で生活しろってことかい……？」

「術者が見つかからない限りそうだろうな。とにかく、今は療養しろ」

そして、渡された小瓶を見る。

「術式を掛けたやつに対する回復効果をもつ呪具だ。使つとけ」

それから、私はしばらく療養した。

私の所に一度読んだら消える手紙が届くようになった。

私を褒める言葉。私を諫める言葉。私を励ます言葉。私を叱責する言葉。

そして、必死で先生を薦めてくる言葉。

なんだか、私が悪堕ちする前提なのが気になるけど、とにかく手紙は私を元気付けてきた。

双子を拾ったら夏油様と呼ばせないように、って。頼まれても呼びせないよ！

後日、本当に双子を拾って、彼らに夏油様と呼ばれたので悟に相談した。

もしかして、2人組とかかもって言ってた。未来視とパーティ登録とかね。

ウサギの式神の目撃報告がたまに出るようになった。

ウサギにはゲージがあつたそうなので、間違いない。

灰原と七海も助けられたそうだし、勧誘したいよね。

そして、ついに一回も投資に失敗したことがないという青年を突き止めた。

契約

「月夜 ウサギさんですか？」

めっちゃやガタイのいい白髪と黒髪の二人組の怪しい人に話掛けられた。

「そうですか。なんででしょう？」

「見えますか？」

「ななな、何がですか？」

小首をかしげる。

「ふーん。マジで見えないみたいだな。でも、呪力と術式は一致してる……」

「??? はっ えっ？」

五条悟、という言葉葉をかろうじて飲み込む。

「なあ、傑に掛けた術式、解除してもらえねーかな」

「頼むよ、困ってるんだ」

「!?!」

「これは……もしかや！」

五条悟も闇堕ちしたとか言わないよね!?!

「はわわわわわわわわわわ！ な、なな、何も知りません!!」

私は叫んで、マンションの中に逃げ帰った。

ふう。

びっくりした……。

今日はもう早く寝よう。

早々にベッドに横になる。

そして、アバターの出現した先はさっきの二人の所だった。

「おっ」

「あっ」

「最強コンビ!!」

そこで、私は気づく。最強コンビの片方にゲージがついてる。

私と同じゲージだ。えーと、トラウマって状態異常がついてる。

「話ぐらい聞けよ！ 俺らのファンだろ」

「ファンですが。闇堕ちしてない？ ちゃんとまだピユアっピユア？」

「ピユアかどうかはわからないけど、離反はしてないよ」

「そうか、よかった……百鬼夜行はなかったんだね」

「お前、さっきの奴だろ？」

「なananの事かな？」

「まーいーけど。傑への術式、解いてやってよ。どれくらい弱ってるか丸わかりだし」

「このゲージ、他の人にも見えるんですか？」

「バッチリ見える。状態異常のアイコンクリックすれば詳細も見れる」

私はトラウマアイコンをクリックしてみた。

『非術師に対するトラウマ。100%になると非術師を殺戮します。32%』ゲエツ」

「それな。その状態異常だけ、どうしても解除できねーんだよ」

「それね。おかげで監視付きだよ」

「最強の俺が守ってやるって言ってるのに」

「ぶっ飛ばすよ？」

「どうやら、君がその式神を出している間だけ出るようなんだ。それを解除して欲しいのと、健康診断を手伝ってほしいのと、未来視ができるなら情報欲しいし、呪霊退治も手伝って欲しい」

「要求多っ。でも私、寝ないと式神出せないし、式神越しじゃないと呪霊見えませんし、式神の顕現場所は完全にランダムですよ？」

「じゃーずっと眠ってて♡」

「悟！」

「じょーだんだって」

「んー。夏油様闇落ちの場合の未来視と引き換えに正体秘匿してもらえるなら」

「あんたが容疑者つてことはもう上は知ってるぜ？ それに健康診断もしてくれよ」

「フレンド登録した人のところには移動できるので、それは大丈夫です。じゃあ、五条家で保護」

「いいぜ」

ということ、契約は成立した。

最終話

ということ、未来をペろペろと話したら五条家で会議となった。

メロンパンに狙われてるってのがまた問題だよ。

「あー。ごめん、傑！ 傑は五条家預かりってことで、監視されて！」

「別に今と変わらないし、構わないよ。私も今すぐ死ねって言われるよりはいいしね」

問題は、呪霊操術なのだ。

解釈拡大で、フレンドのHPがわかるようになった。

HPが半減した人の所に助けに行くことができるようになったので、夏油様と救援部隊な仕事を主にすることとなった。

これは五条家の派閥拡大ですね。

トラウマ消えないから、夏油様には真人でちまちま後天的術師を増やしてもらう事にした。

その調子で頑張って日本人全て術師にして。ただし天元様のコントロールは勘弁な。

それから、10年ほど経った。メロンパンは10年かけてなんとか倒した。

そして、私はついにやり遂げたのだ。

「悟様！ 夏油様！ 大発見です!! ついにトラウマの状態異常を消す事が可能になりました!!」

大発見をした私は、急いで走って二人の元へ行つた。

「すげえじゃん。どういうの?」

「なんか不安だけど……一応聞くとよ」

「トラウマ恋愛フラグ変換!!」

「フアーw」

「ゲツホゴツホ」

悟様が笑い、夏油様が咳き込む。

「トラウマ解消イベントをこなすと、夏油様のハートをゲツチューー!」
思いっきり拳を振り上げる。

「ゲツチューーじゃないよ!?!」

「ご心配なさらずとも、治療の準備は万全でございます!」

「挑戦者その1！ 美々子！」

「は!？」

「夏油様のハートをゲツチューすべく、頑張ります！」

「挑戦者その2！ 奈々子！」

「夏油様ー！」

「ちよつと待って私が二人に手を出したら犯罪だからね!？」

「ならば同じ年だ、挑戦者3、ラルウ！」

「はーい♡ 傑ちゃん、覚悟してね♡」

「それって絶対しないと駄目なの!？ 別にそのままでもいいよね!？」

「エントリー4番、俺！」

「おおつとこれは強敵だー！」

「みんな、私の心を弄ぶなよ!?!？」

「これは歴とした治療行為なので。硝子の許可も取ってるので」

「硝子ー!!」

だってこれで憂いは夏油様のメンタルのみだもん。

この後に及んで闇落ちされたらすごく困る。

ということ、攻略されてトラウマカードを捨てて恋愛カードを手に入れるのです。

「私に選択権はないのかい!？」

「あー。これ、トラウマ解除クエストをクリアできた人に強制的に恋するシステムなので」

「不穩!!」

「つとということで、恋愛クエストスタート!!」

「うわああああああああ」

「初回ミツシヨンは、うなされているところでそつと手を握る」

「うわ……?　なんだ、結構まともなんだね。私はそんなことされなくても問題ないけど」

「他にも、呪霊を取り込んだ後に口直しのお菓子を渡すとか」

「それは、助かる、かな……?」

「そうやって好感度をあげてって愛の力でトラウマ解除していくのです」

「面白いからやってみよ」

「面白いからでやらないでくれないかな!？」

「まあまあ、クリア前に候補から外しますから」

「可能なの?　それ」

「多分」

そんなわけで、五条派閥内では割と平和にやれている。
他派閥と？ 常にバチバチですね！ でも最強コンビが幸せならいいのだ！